



日本の熱い活動を、暑い韓国で発表してきました!

埼玉県飯能市美杉台児童館 主任 木崎 享江

2010年8月に実施した「韓国健全育成活動事業特派員」事業にご参加いただいた児童館関係者のレポートを今号もお届けします。今回は、日本チームのプレゼンテーションについて木崎さんからのレポートです。

私は、ハングルを学んでいる母(74歳)と実践を兼ねた観光で、何度か韓国を訪れていましたが、今回は特派員という特別な使命を受け、いつもと違う韓国に出会えるチャンスに緊張と期待でいっぱいでした。そんな私を知ってか知らずか、空港へ迎えに来てくださったブスロギの皆さんはとてこやかで温かく、緊張感を一挙に溶かして余ほどの笑顔でした。

日本チームの結束

初めて出会う日本のメンバーは、選ばれるだけのことはあり、メンバー同士や韓国ブスロギのスタッフ、そして子どもたちとも、親しくなるのに時間はかかりませんでした。昔から苦楽を共にした仲間のように、がっちりスクラムを組んでいました。

日本ブースの準備や遊びの紹介など、抜け目なく速やかに、そして何より楽しく、日本の児童館を韓国の方々に伝えることができました。

ワークショップでの発表

フェスティバルの2日目は、それぞれの地域活動について発表する、ワークショップが行われました。会場に集まった100人ほどの韓国の方々には事前に送った資料が翻訳されたものが配られ、通訳さんもスタンバイOK。財団の阿南さんが日本の児童館の総合的な話をし、いよいよ特派員の発表です。

トップバッターだった私は「飯能市の子育て支援」についてプレゼンしました。「アニョハセヨ チョンベケスムニダ チョヌン イルムン キザキタカエ スムニダ チャルプタカムニダ(こんにちは、はじめまして、私の名前はきざきたかえです。よろしくお願ひします)」と韓国語で挨拶をし、パワーポイントを使って説明しました。美杉台児童館の「メイプルルーム」や「ひだまりルーム」など子育て支援の取り組みや、その他の子育て支援拠点、保育所・放課後児童クラブをはじめとした支援施設を紹介しました。

続いて、神戸の田谷さんは「神戸市の子育て支援 キッズクラブ」について発表しました。「これは地域で安心して子育てできる環境作りの一環として、児童館で保護者同士が交代で子どもの世話をするものです。これにより保護者のリフレッシュ! 子育ての安心感! 保護者同士のつながり! 地域の子育て力の向上! といった効果につながったのです」と熱弁をふるいました。

3人目は大阪の宮本さんです。「都島児童館 子どもの家」につ

いての発表です。地域の特性を生かし、放課後児童の充実した居場所を目指した取り組みが紹介され、「子どもたちが、ふわっとくつろげる場所です」と表現されて、暖かく家庭的な居場所であることが伝わってきました。



▲発表を熱心に聴く、参加者の皆さん

日本の最終発表は、札幌チームが「中・高校生夜間利用」について発表しました(前号参照)。「1318 Happy Zone」と対象年齢が同じこともあり、参加者は興味深くメモを取っていました。

最後に韓国の「1318 Happy Zone」の運営事例についての紹介があった後、発表者全員が壇上に上がり、質疑応答後、一人ずつ感想を述べました。私は「韓国の子供たちは、とても大きな愛に包まれていると感じました。子どもたちの笑顔は、すべての人たちの喜びです。これからの世界を担う子どもたちが、大きな愛で国境を越え、つながり、支えあえる大人に成長できるよう支援していきたいと思ひます。韓国の方々も一緒にファイティング!」と感想を述べ、みんなで「ファイト」のポーズをとって会場が一体となり、ワークショップは無事終了いたしました。

ブースの撤収後行われた閉会式はスコールを思わせるゲリラ豪雨となりましたが、子どもたちの素晴らしいダンスに始まり、活気ある韓国の子どもたちとの再会を誓い、全員で記念写真を撮り閉幕となりました。

今回の特派員事業は、暑〜い夏の忘れられない素晴らしい体験となりました。財団の皆さまをはじめ、一緒に過ごした日本のスタッフの皆さまや韓国のブスロギの皆さまに心から御礼申し上げます。



▲子育て支援の取り組みを発表



▲閉会式で全員集合!

お知らせ

全国児童館・児童クラブ大会・北海道大会(2011年10月22日~23日)に韓国の児童館「1318 Happy Zone」のスタッフの来日が予定されています! 皆さんとの交流を期待しております。ぜひ札幌でお会いしましょう。